

二十歳おめでとうございます

8月15日（木）、第69回坂城町二十歳のつどいを町文化センターにて開催しました。
町内では、平成15年4月2日から平成16年4月1日生まれの125名が20歳を迎えており、そのうち101名の皆さんが式典に出席されました。

式典では、まず、戦没者の方々への追悼と世界の平和を祈るため黙祷が行われました。その後、二十歳のつどい実行委員会代表の榊原陽太さんがあいさつしたほか、中学校時代の担任の先生からお祝いの言葉や歌が20歳を迎えた皆さんに贈られていました。

第69回 坂城町二十歳のつどい

実行委員会 代表あいさつ



榊原 陽太さん

本日、二十歳のつどいを挙行することができたのは、ご来賓の皆様、先生方、地域の皆様、そして、いままで私たちを育ててくれた家族など多くの方のお力添えのおかげです。

また、山村町長をはじめ皆様からの温かいお祝いと激励のお言葉をいただきまして心より感謝申し上げます。

現在はコロナウィルスの流行が落ち着き、制限のある生活のほとんどが終わりを迎えました。人と人との繋がりが半強制的に隔離されたコロナ禍の時代を皆様はどのように過ごしていたのでしょうか。

今日は二十歳を迎えた皆さんに、「人を頼る勇氣」というテーマを持ってお話し

させていただきます。私は高校時代バレーボール部に所属していました。そして、高校3年の夏、あの恐ろしいコロナウィルスにかかりました。その時期が、最後の夏の大会という高校生活において大事な大会の直前のことで、その影響により、大会への参加が許されませんでした。

私たちは、チーム競技のバレーボールに打ち込んでいたため、多くの仲間の出場機会を奪ってしまい、とてもつらく、遣る瀬ない気持ちになったのを覚えています。

その後も施設療養とこのことで強制的にホテルへ隔離され、仲間にも申し訳ない気持ちと孤独感に押しつぶされそうな日々を過ごしました。

隔離が終わっても迫る受験、ストレスからくる胃腸炎などを理由に学校へ足を運ぶことが減り、自ら人との隔離を選択しました。そんなとき、私を救ってくれたのが中学校の恩師と友人でした。

不満と不安が入り混じっていた私は、恩師のもとへ足を運ぶと、私の話をうなずいて聞いてくださり、親身になって対応をしてくださった日々を思い出してなんだか安心して、悩みが和らぎました。

また一度大学受験を失敗して浪人した私に、友人たちが、週に何日か一緒に勉強しようと言ってくれて、一年間ずっと私と一緒に勉強を続けてくれました。それらの経験は、大学に受かったことよりもはるかにかけがえないことだったと感じています。

私たちの向かう未来は予測できないものとなっていきますが、いつの時代も、人は人に影響されて生き方や喜怒哀楽が変化していきます。

二十歳を迎えた皆さんの中には社会人として働いている人、学問を修めたり社会人の準備をしたりするため進学した人、今一度人生の休息をとっている人、また結婚した人など、その他、多くの境遇を迎えている人がいることだと思います。

しかし、そのどのステージにおいても苦しくなったときには、ぜひ人を頼ってください。ここにいる皆さんは、ずっと私の話を静かに聞いてくださっているのだから、きっと困ったときには親身になって話を聞いてくれるはずですよ。

人は気持ちがあふさった時、一人でどうにかしようとしません。

しかし、そこで一つ勇氣をもって信頼している人を頼ることで、見えていなかったものが現れたり、少しだけ心が軽くなったりすることがあるかもしれません。

最後になりましたが、みな各々の進路があっても、心のよりどころとして、こ



こ坂城町で過ごした経験というものには全員が共通に持っているものがあります。それぞれ羽ばたいていく場所は違いますが、そのつながりを心に持つておくことで少し安心するような気がします。それぞれのス

テージで皆様が一層活躍されることを祈っています。簡単ではございますが、令和6年二十歳のつどい実行委員会代表のあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



実行委員の皆さんご協力ありがとうございました。

榊原 陽太さん (実行委員長)	滝澤 燦太さん 竹田 淳紀さん 栗林 光琉さん 中村 星南さん	浅野井 彩さん 高松 千彩音さん 西沢 雅大さん	大橋 明佳さん 大井 真結美さん 宇野 香澄さん
--------------------	--	--------------------------------	--------------------------------

分館スポーツ大会

7月20日（土）、坂城町体育館で、令和6年度 分館スポーツ大会（スマイルボウリング競技）が行われ、11分館、約200名の皆さんが参加しました。6レーンに分かれてのリーグ戦で、10本のピンを1チーム5人で協力して倒していくというルールで行われ、上は90歳代の方から下は小学校低学年まで、幅広い世代の皆さんがチーム一丸となってスマイルボウリングを楽しみました。



500字リレートーク 子どもの目線でチャレンジ！

中乗 真紀

子どもたちに関わる仕事をさせていただいてから10年になるうと思っています。

我が子を見ていて思うことは、子どもたちは本当に忙しいということです。いくつもの習い事を行っている小学生、中学生や高校生は部活動や定期的に行ってくるテストに向けてのテスト勉強もあり、日々本当に忙しそうです。

そこで私も子どもたちの気持ちになつてみようと考え、漢字検定を受けてみることにしました。検定級は高校卒業程度。問題集を購入しました。日頃、携帯やPCの変換機能に頼りっぱなしで、読みは出来ても、書くことが難しい。類義語・対義語、見たことの無い四字熟語などもあり、受験を決めたことを後悔しました。15分もすると睡魔が襲ってきて、仕事を言い訳に、勉強しない日もありました。検定日が近づくにつれ、焦りはするものの、思うように勉強は進まず当日を迎えました。

席に着くと、周りは小学生と中学生。学生だった頃を思い出し、懐かしさと緊張感でいっぱいになりました。子どもたちと夫に、「お母さん、頑張ったね！」と褒めてもらい、気分をよくし、子どもたちのこともたくさん認め、たくさん褒めてあげたいと思いました。そして、次は英検に挑戦です。

次のリレートークは、西澤瑞恵さんをお願いします。

